

# 熊本商工会議所

## 2004年経済予測アンケート

### 結果報告書

#### KEY WORD

景気の現状、回復予測...「足踏み」43%、「やや好転」30%とわずかに  
明るい兆し

- ・「04年内」回復が37%、「05年内」回復は26%

産業別予測

- ・「農・林・漁業」「卸売・小売・飲食業」「金融・保険業」「不動産業」「サービス業」変わらない
- ・「製造業」「運輸・通信業」やや好転
- ・「建設業」やや悪化

円・株・金利相場すべて「やや高」を予測

経営上の問題点トップは「受注、販売競争の激化」で61%

「営業利益」重視、「新規設備投資」に慎重さ続く  
雇用全体は「過不足感なし」53%  
採用見込みは「欠員補充」43%

# 熊本商工会議所

平成15年12月作成

< 本調査のお問い合わせ >

熊本商工会議所 商工振興部 情報調査課

TEL 354 - 6688 FAX 326 - 8343

## はじめに

本アンケートは、長引く景気低迷の中、2004年の様々な経済要素を予測し、事業を営む皆様の経営指針における一助となることを目的として平成9年度より実施しており、今回で第7回となります。

回答結果は、「景気」において、現状は「足踏み状態」ながら、回復時期については「04年以内」との回答が多いなど、明るい兆しが見えるものとなりました。

加速度的に進む業界再編や地域振興など地域経済は本格的な変革期を迎えています。そのような中、本書が皆様への情報提供として、微力でもお役に立てれば幸いです。

なお、最後になりましたが、年末のご多忙の中にもかかわりませず、本アンケートにご協力を賜りました当熊本商工会議所役員並びに議員の皆様にご心より感謝申し上げます。

平成15年12月  
熊本商工会議所

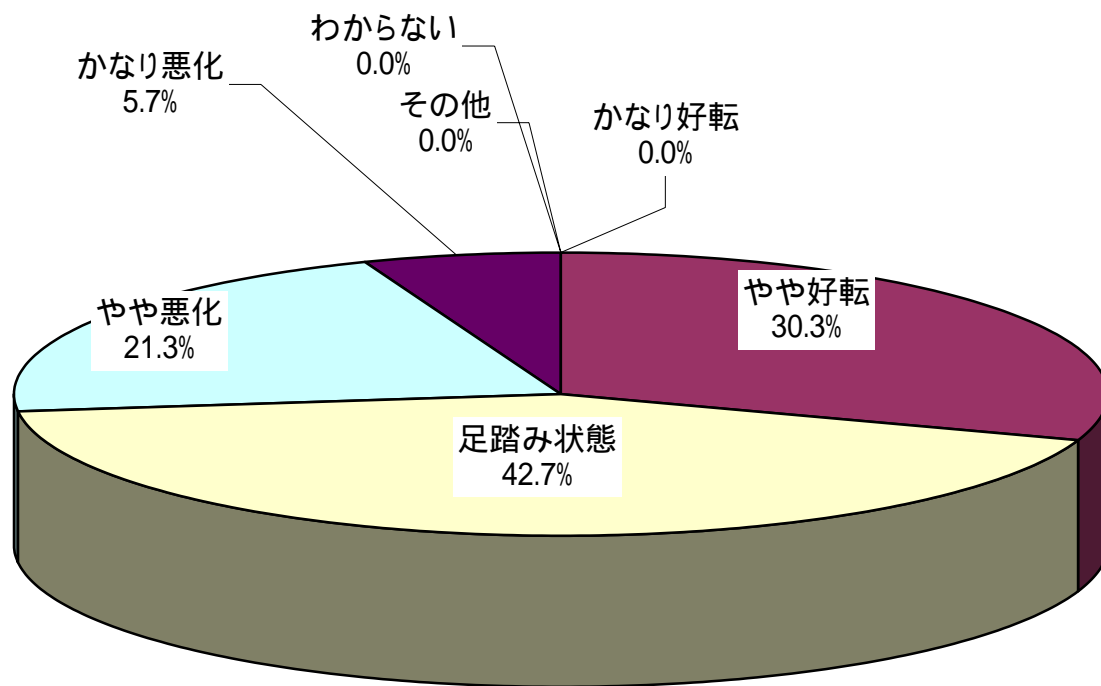
## 調査概要

1. 調査期間 平成15年11月26日(水)～12月9日(火)
2. 対象者 熊本商工会議所 役員並びに議員
3. 配布数 100名(100企業)
4. 調査方法 調査用紙配布：郵送 調査票回収：郵送またはFAX
5. 回答数 89名(有効回答率89%)
6. 調査機関 熊本商工会議所(担当課：情報調査課)

## 2004年景気

### 【景気の現状】

「足踏み状態」42.7%、「やや好転」30.3%

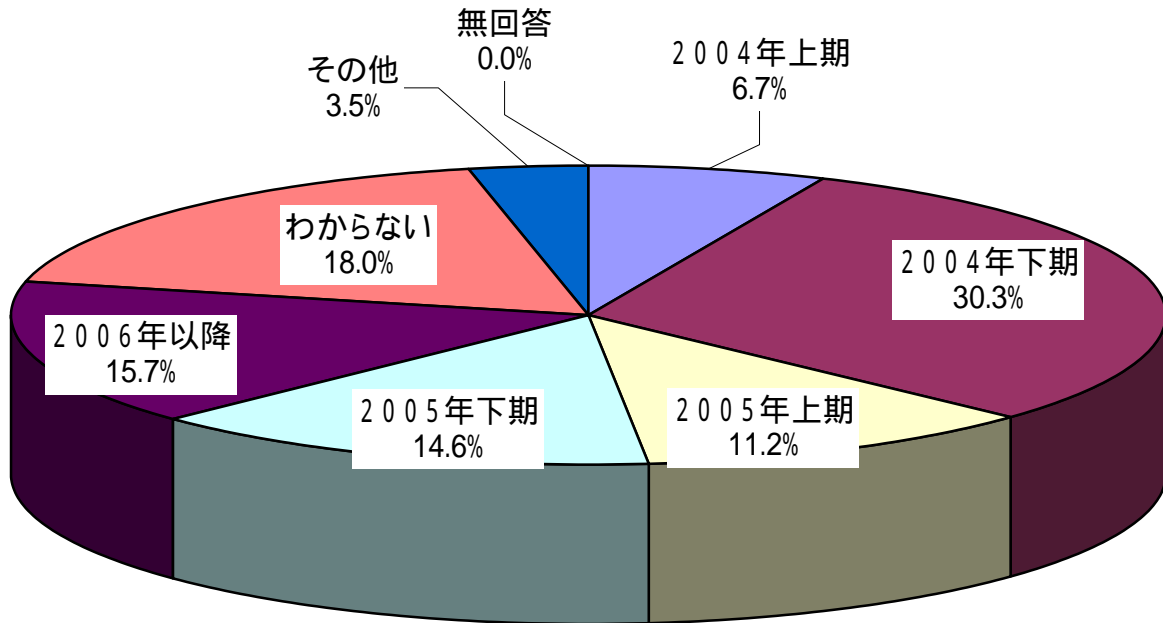


景気の現状(2003年11月下旬時点)について、「足踏み状態」が、42.7%と最も多く、次いで「やや好転」が30.3%、「やや悪化」、21.3%、「かなり悪化」5.6%となった。

「やや好転」が、「やや悪化」「かなり悪化」を上回り、わずかに明るい兆しを思わせる結果となった。

## 【景気の回復時期】

「2004年内」37.0%、「2005年内」25.8%



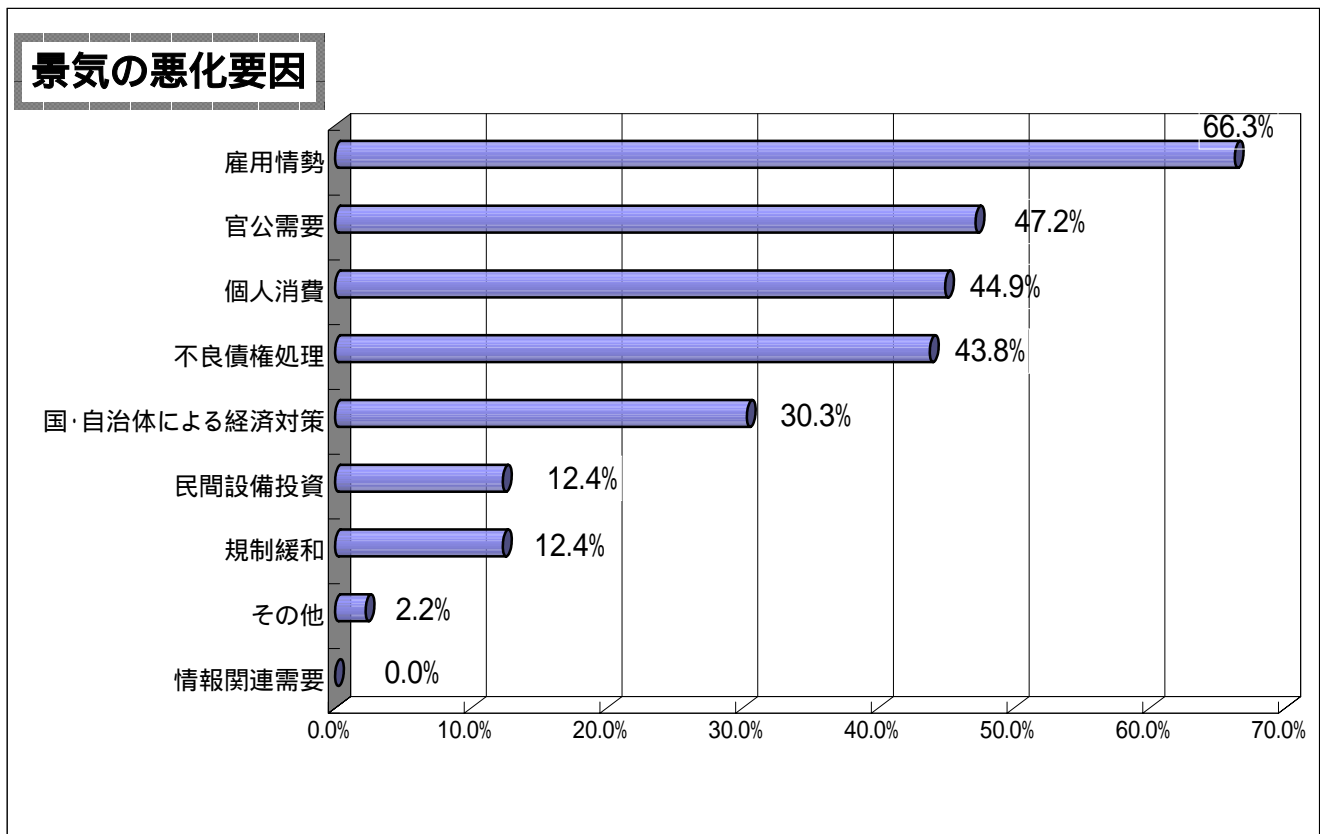
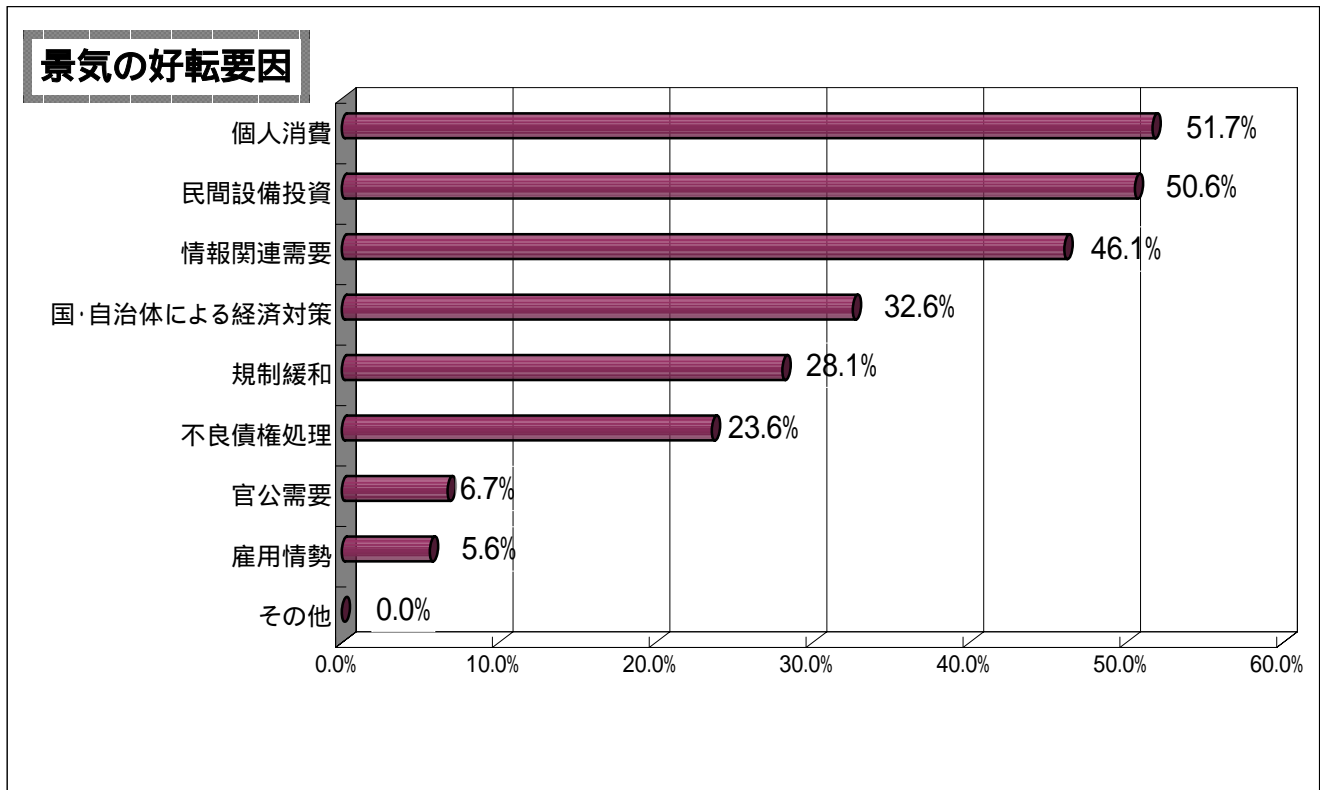
景気が回復する時期については、「2004年内」は上期6.7%と下期30.3%を合わせて37.0%となった。

一方、「2005年内」は2005年上、下期を合わせて25.8%となり、景気回復を「2005年内」までと予測する数字が62.8%と過半数以上を占める結果となった。

# 【景気の好転、悪化要因】

好転要因は「個人消費」「民間設備投資」が50%超

悪化要因は「雇用情勢」が60%超

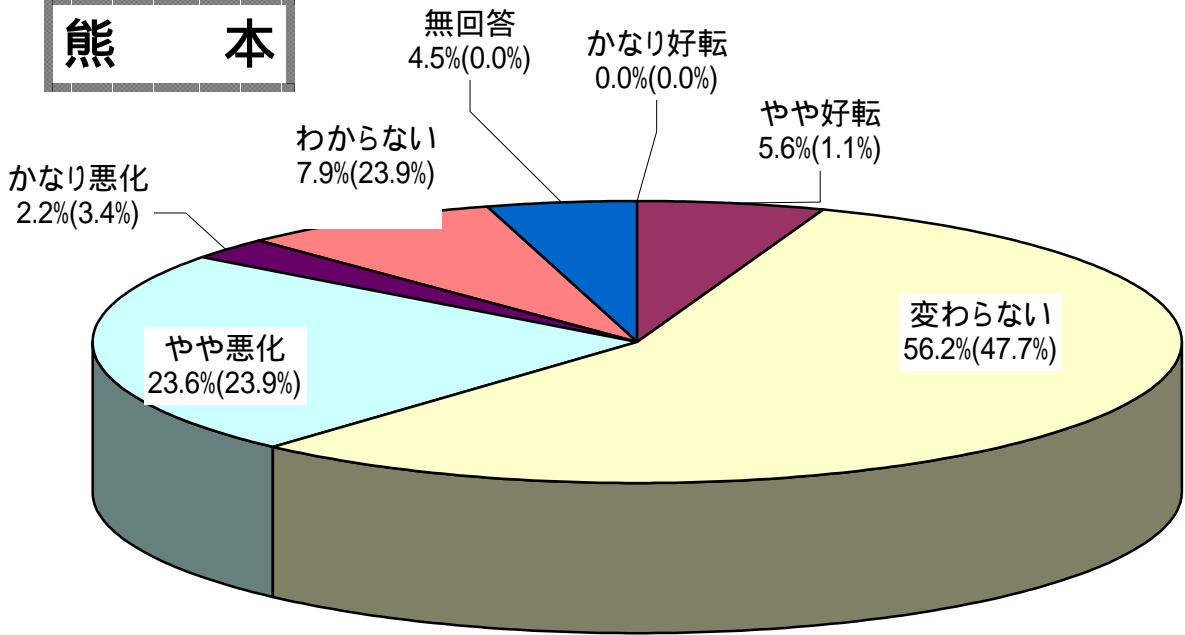


# 2004年 産業別動向

## 産業別

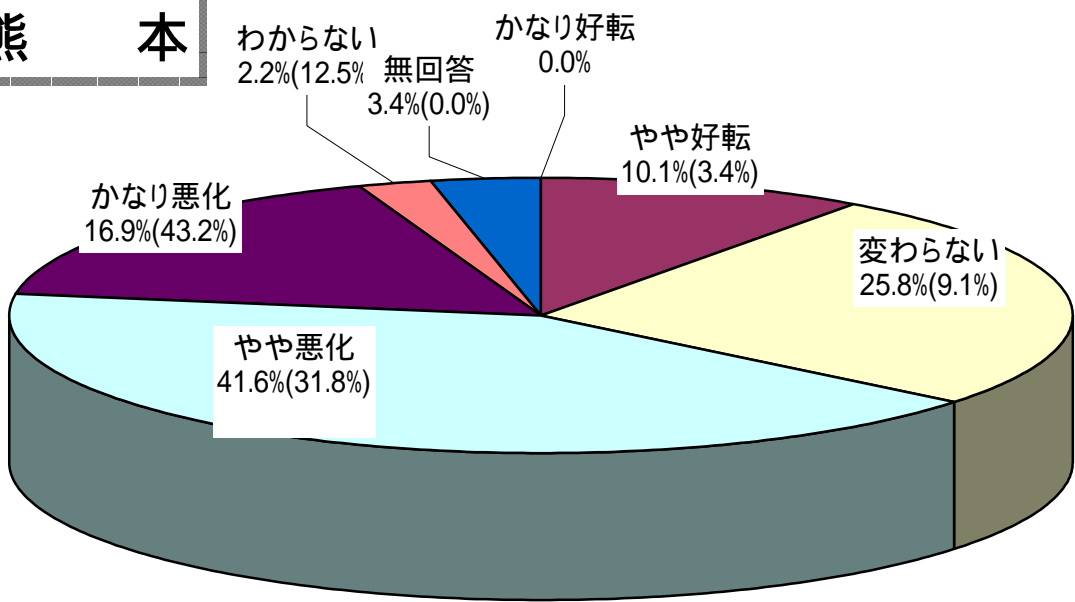
### 農・林・漁業

#### 熊本



### 建設業

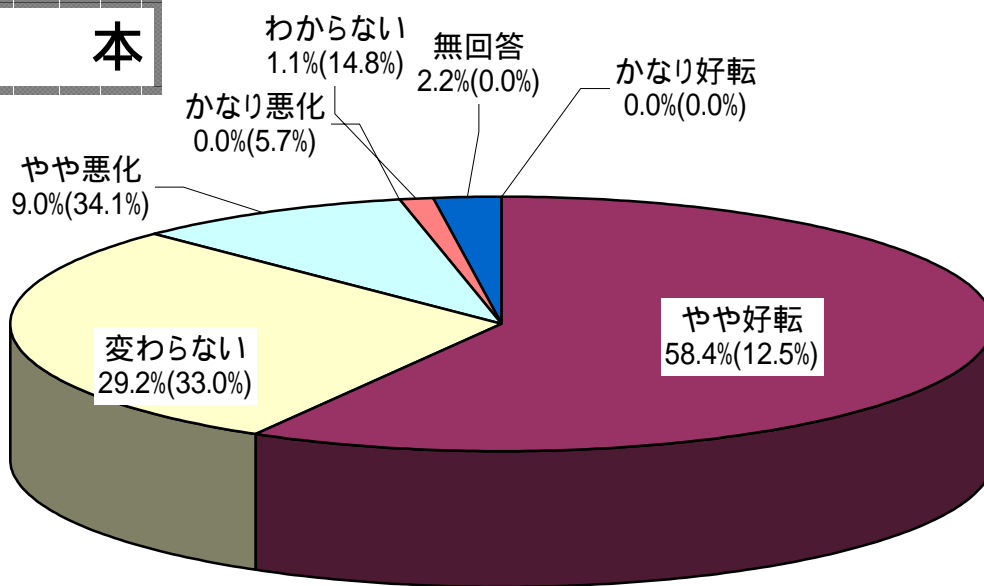
#### 熊本



グラフ内の( )については、前年数値(以下同じ)

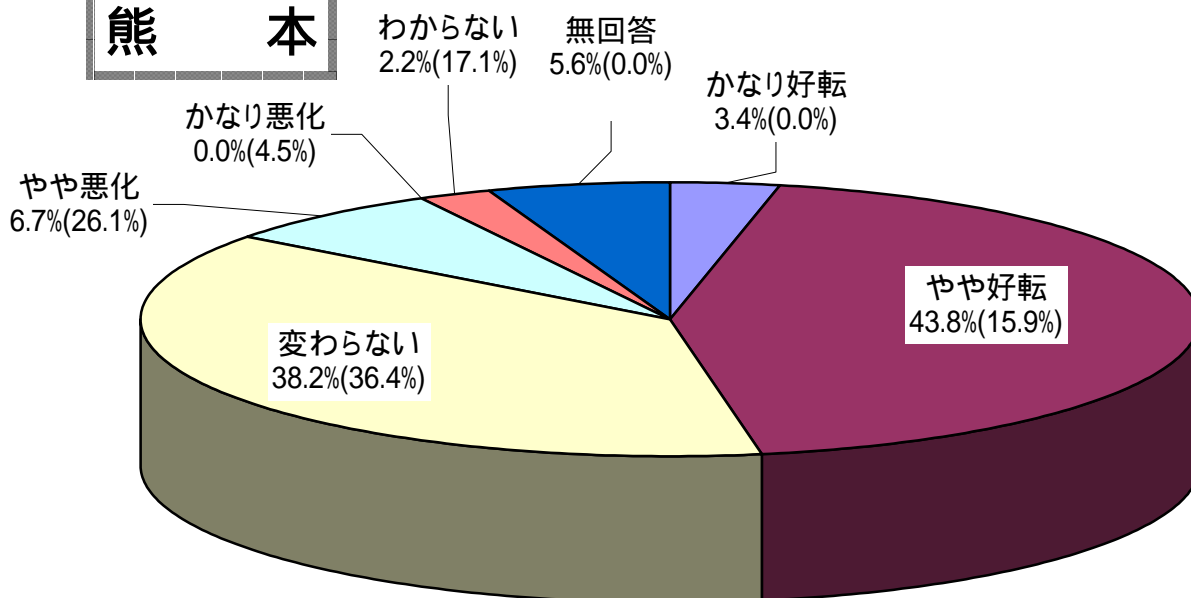
# 製造業

熊本



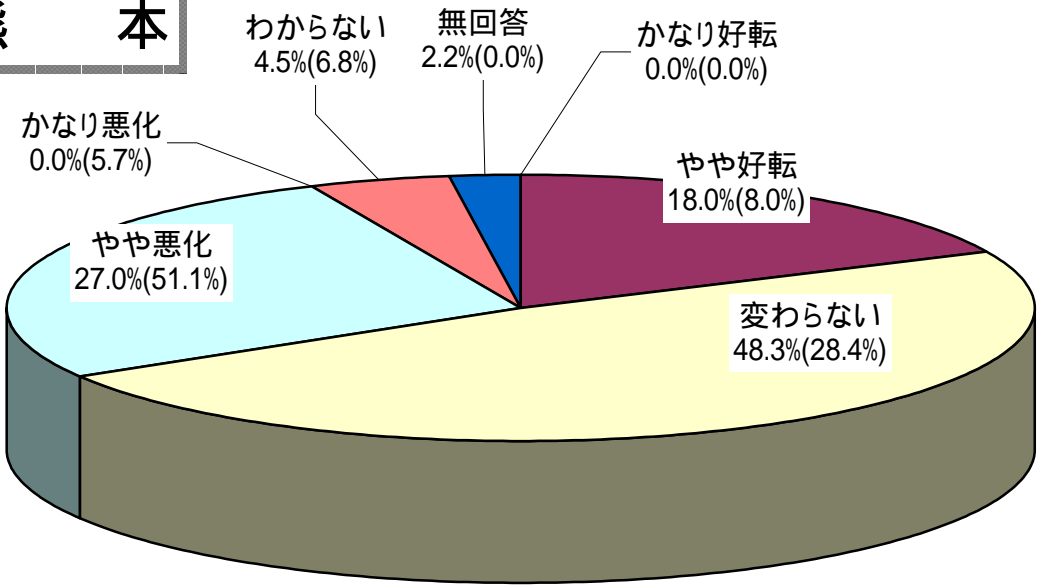
# 運輸・通信業

熊本



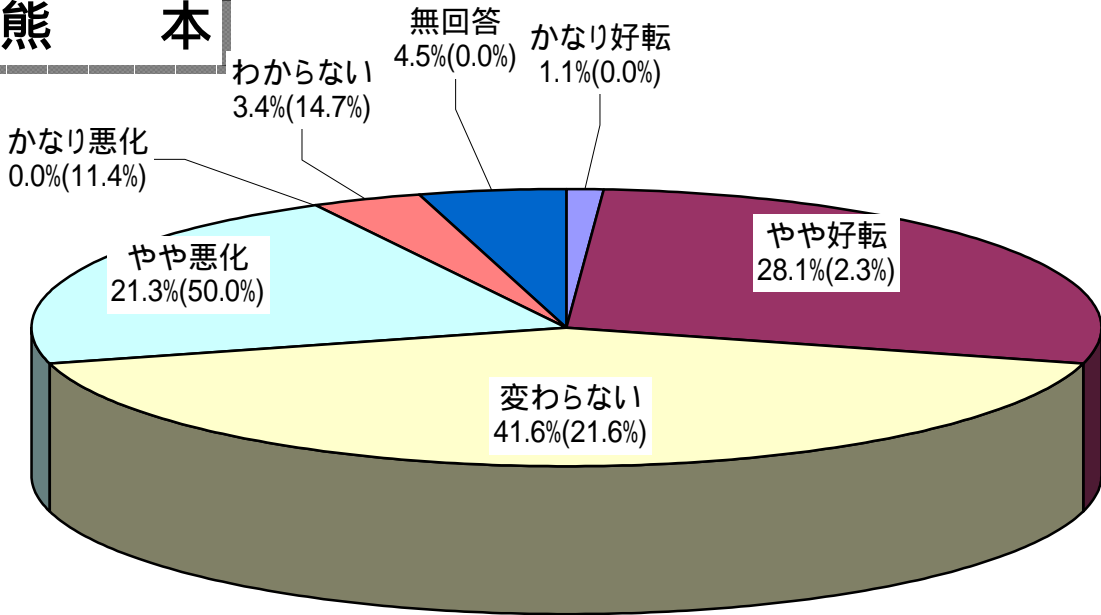
卸売・小売・飲食業

熊 本



金融・保険業

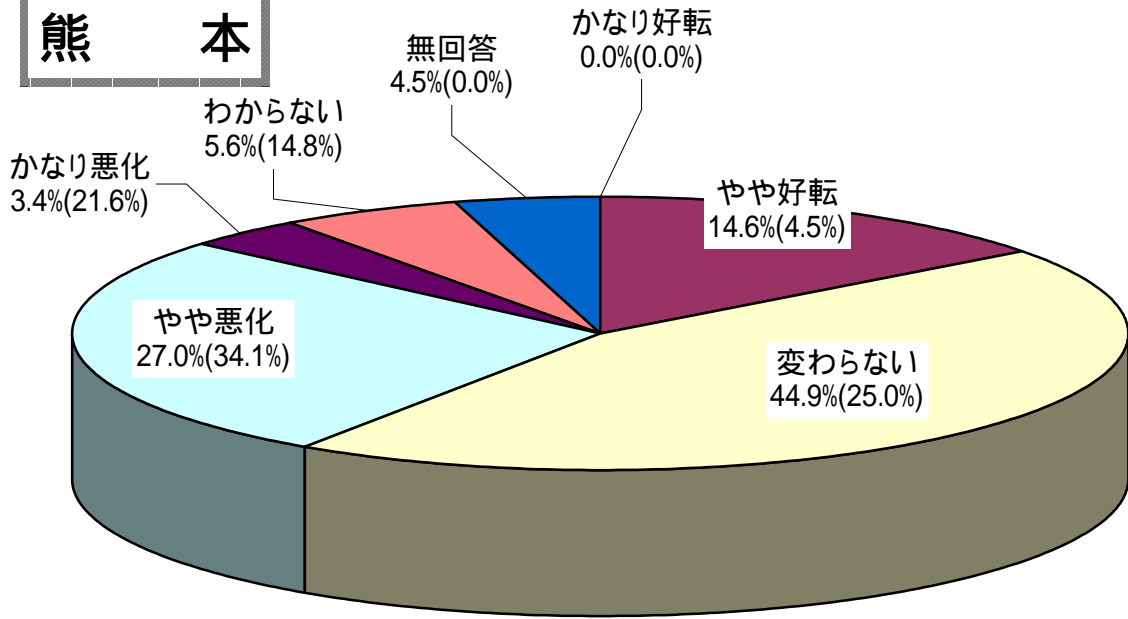
熊 本





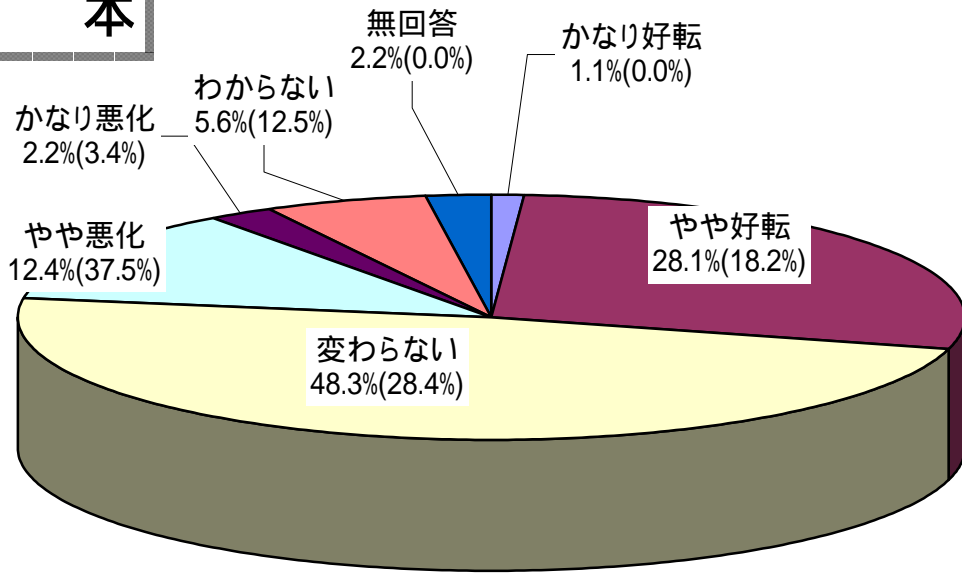
不動産業

熊本



サービス業

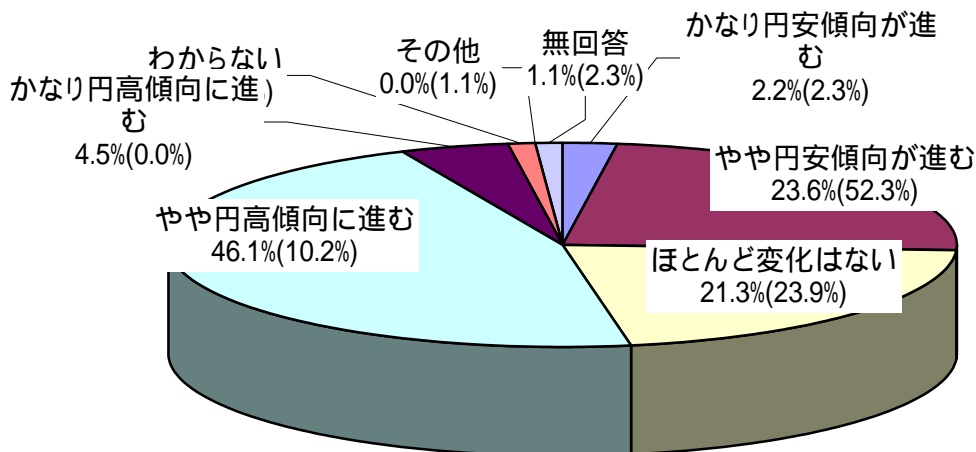
熊本



# 2004年円市場

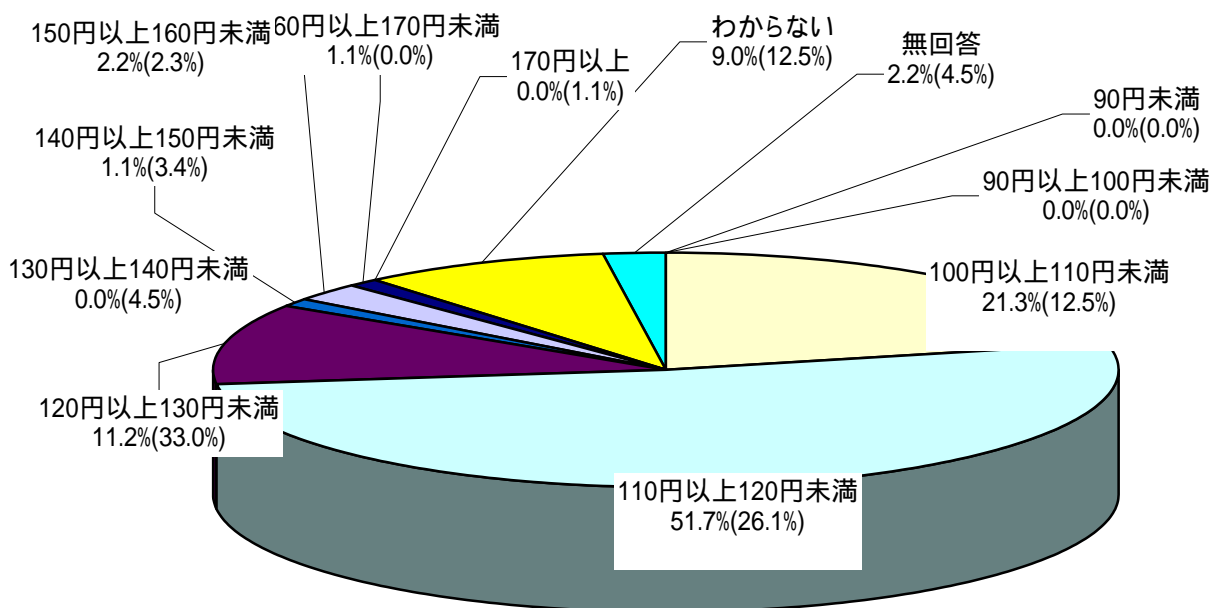
## 46.1%が「やや円高」を予測

2004年の円市場の推移予測は、「やや円高」が46.1% (対前年比35.9ポイント増) 次いで、「やや円安」23.6% (対前年比28.7ポイント減) と円高推移予測がトップとなったものの円安を予測する回答も多いなど、先行き不透明感を反映する結果となった。



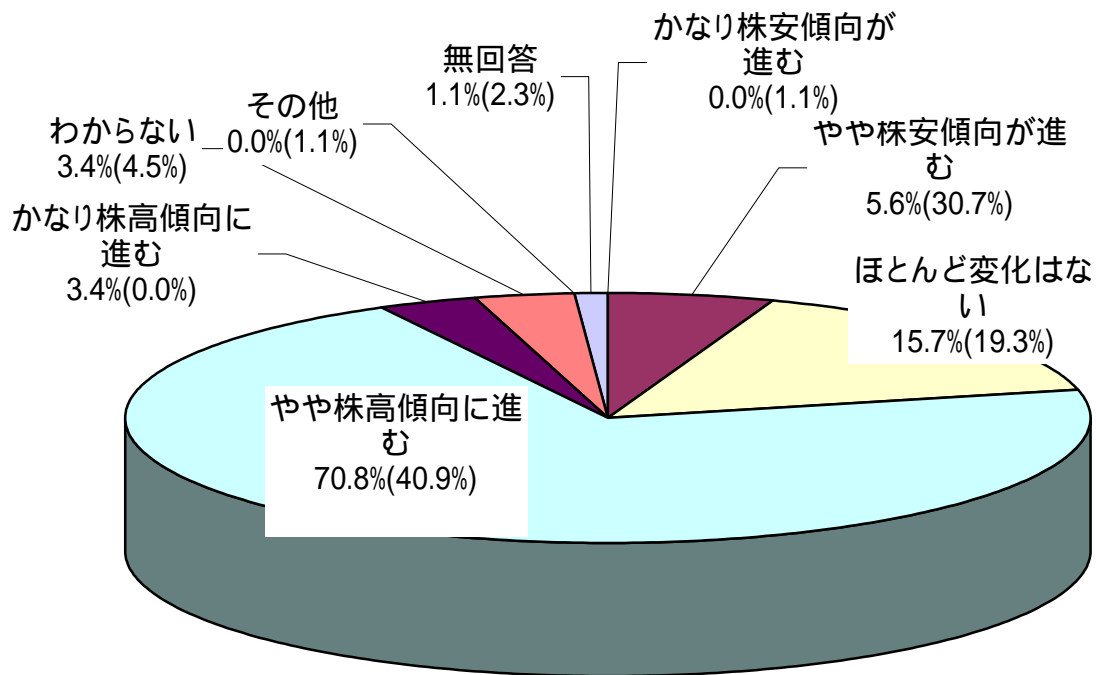
# 適正レート

## 「110～119円」が51.7% (対前年比25.6ポイント増)



# 2004年 株式市場

「やや株高」が70.8%  
 ~「やや株安」は5.6%~

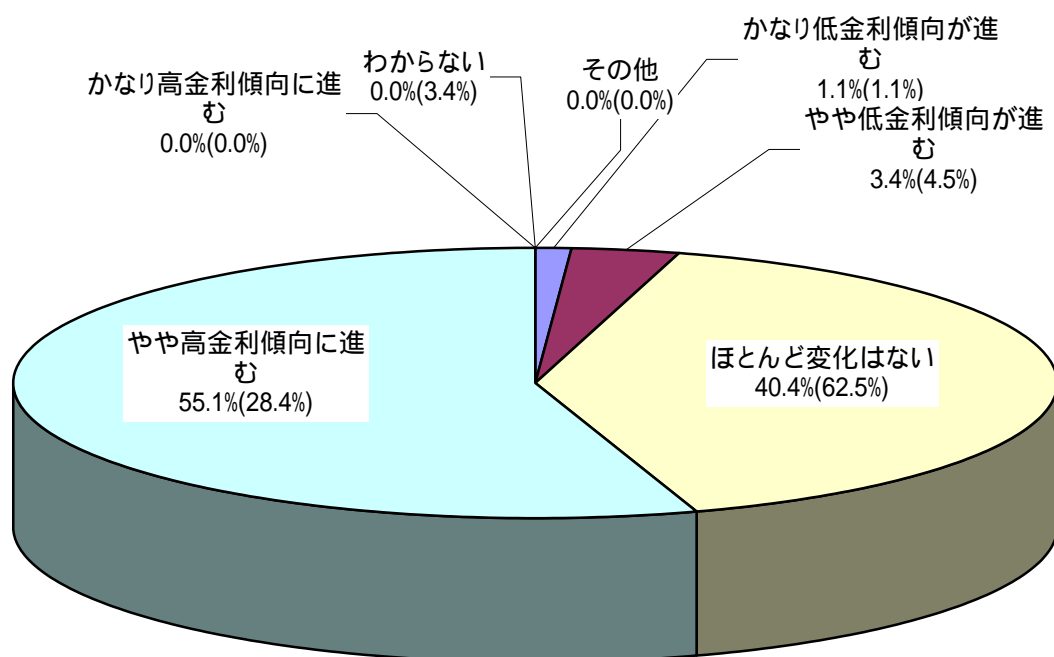


2004年の株式市場の推移予測は、「やや株高」が70.8% (対前年比29.9ポイント増)を占める結果となった。

## 2004年 金利

「やや高金利」55.1%

～「変化なし」40.4%～

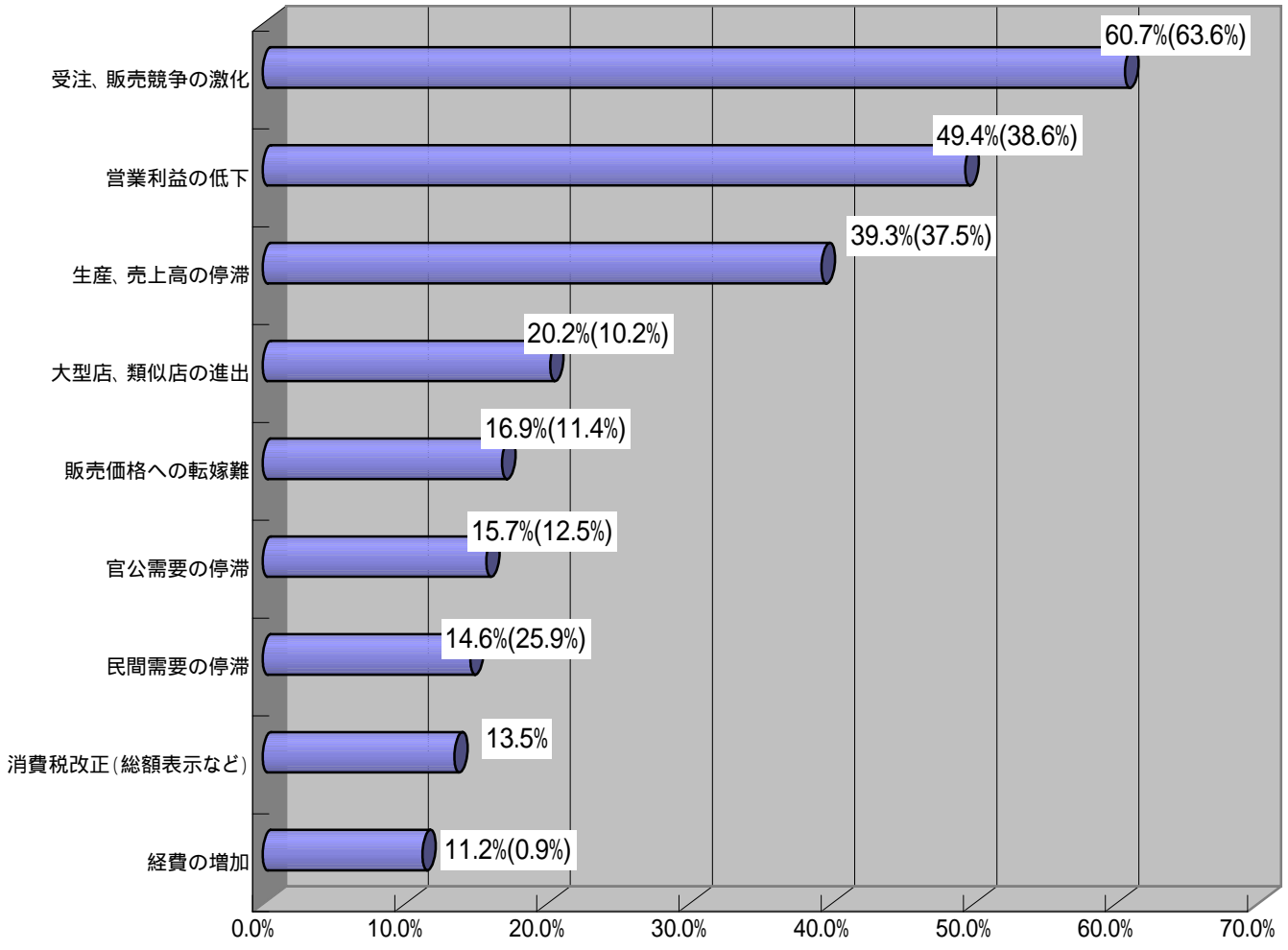


2004年の金利状況予測は、「やや高金利」が55.1%（対前年比26.7ポイント増）と過半数を上回り、次いで「変化なし」が40.4%（対前年比22.1ポイント減）の結果となった。

# 2004年 経営上の問題点

「受注、競争の激化」60.7%  
～「利益低下」49.4%、「売上停滞」39.3%～

## < 主な経営上の問題点 >

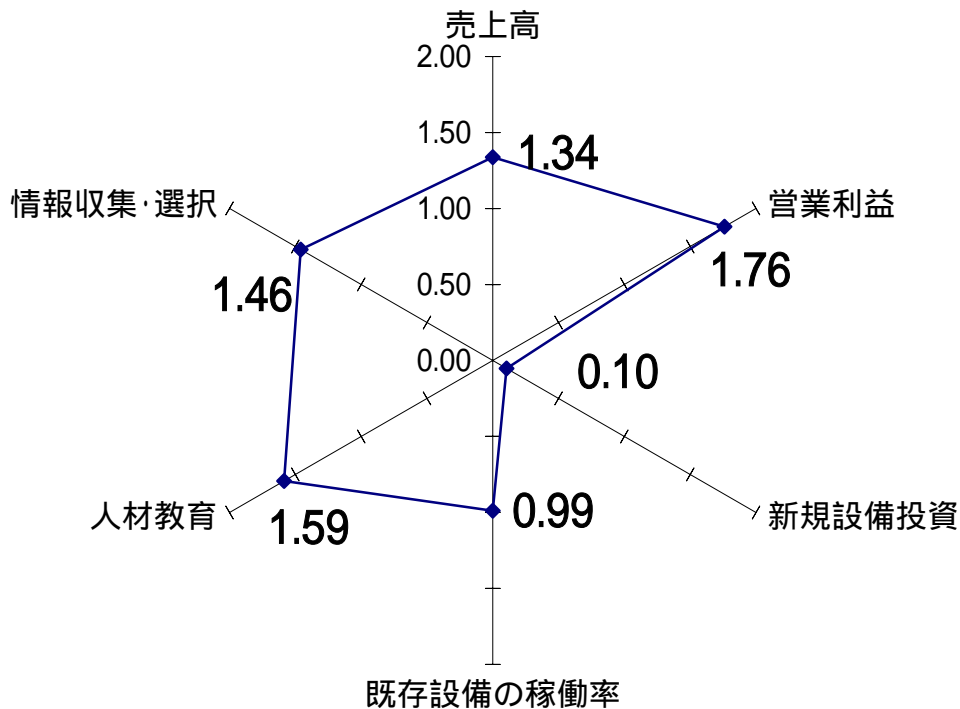


2004年における経営上の問題点としては、「受注、販売競争の激化」が60.7% (対前年比2.9ポイント減) 「営業利益低下」49.4% (対前年比10.8ポイント増) となり、長引く景気の低迷、急速に進む経営環境の変化を背景として、競争激化の中での利益低下を懸念する傾向がうかがえる。  
また、「消費税改正」の影響を懸念する回答も13.5%の結果となった。

## 2004年 経営の重視度

「営業利益」重視の傾向が続く

### < Radar Chart >



上のレーダーチャートは、「重視度」をポイント換算し作成したもの。

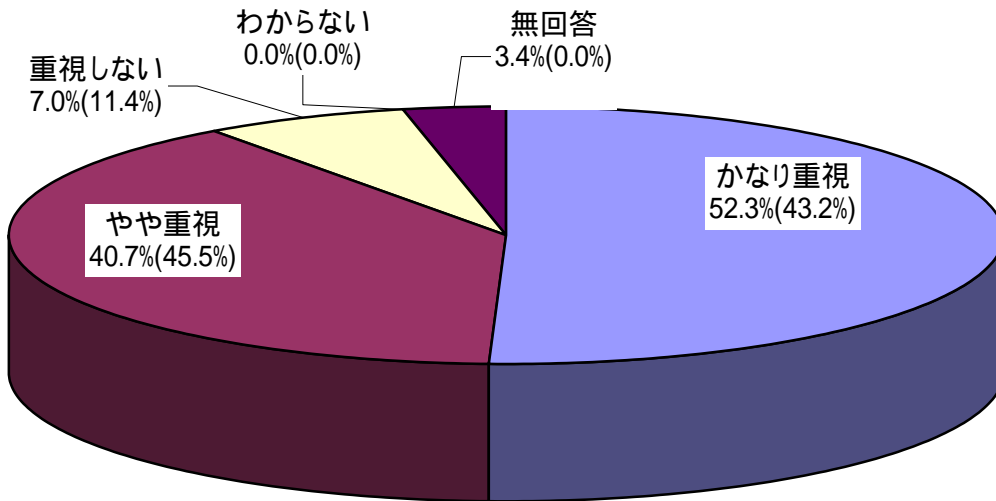
( )それによると、2004年における経営上の重視度は、「営業利益」「人材教育」「情報」の3つの面で重視ポイントが高く、7年連続して前述3項目が重視上位を占める結果となった。また、「新規設備投資」については、ポイントは低く、依然として慎重な姿勢が窺える。

収益面では、売上高を「(かなり+やや)重視する」が93.0%、営業利益を「(かなり+やや)重視する」が97.7%となったが、「かなり重視する」の比較では、売上高の52.3%に比して、営業利益は76.4%と依然として『利益効率』を重視する傾向が窺える。生産面では、新規設備投資を「重視しない」が47.2%(対前年比0.6ポイント増)と依然として慎重さが続いている一方、既存設備の稼働率については、「(かなり+やや)重視」が85.4%という結果となった。

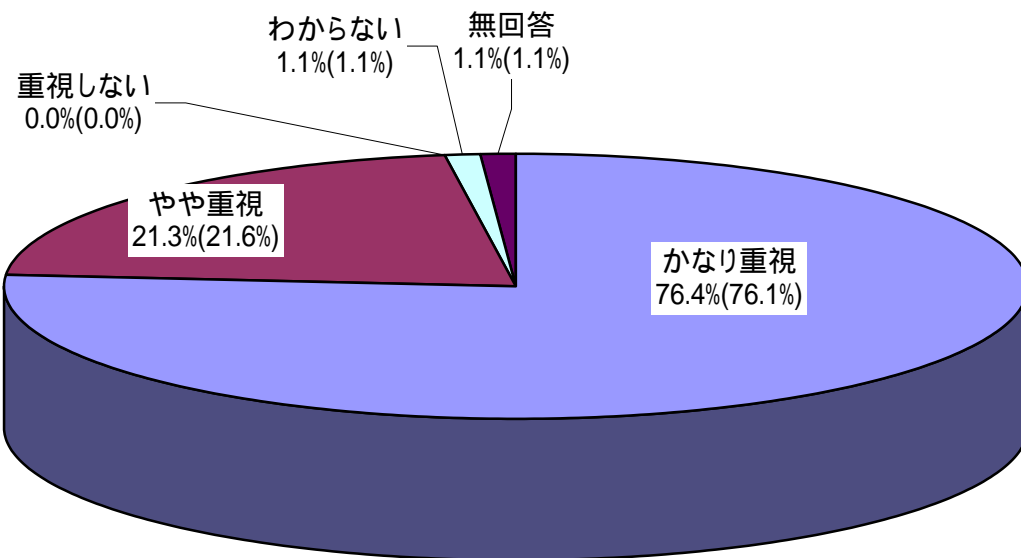
「かなり重視」をプラス2、「やや重視」をプラス1、「重視しない」をマイナス1としてトータルポイントを算出し、総回答から「わからない」と回答した人数を引いた数で割ったもの

収 益

< 売上高 > 「かなり重視」52.3%

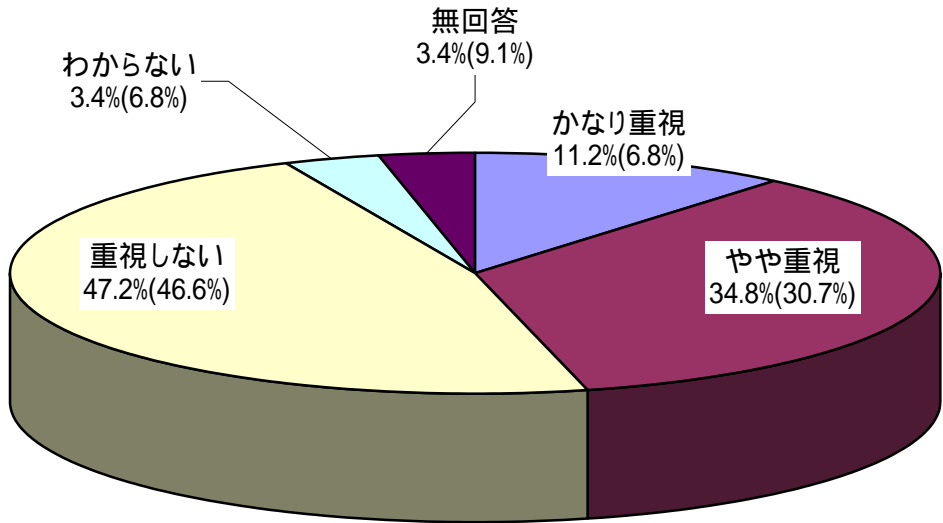


< 営業利益 > 「かなり重視」76.4%

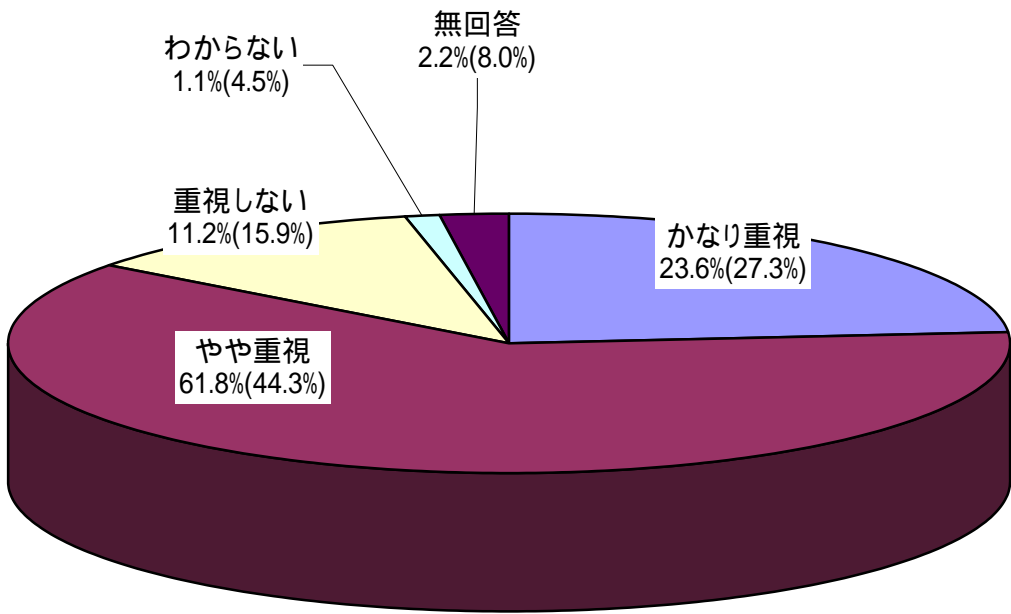


生産

<新規設備投資> 「重視しない」47.2%



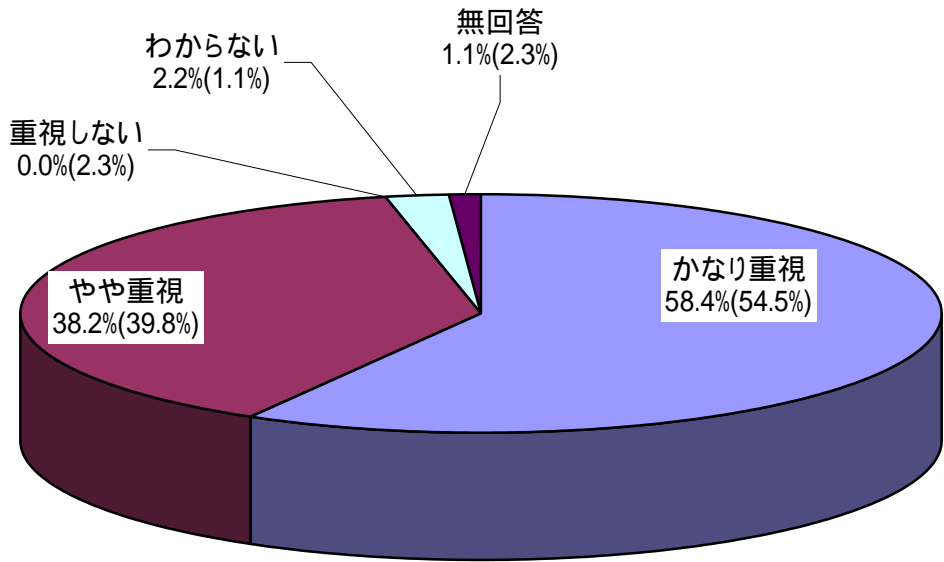
<既存設備の稼働率> 「やや重視」61.8%



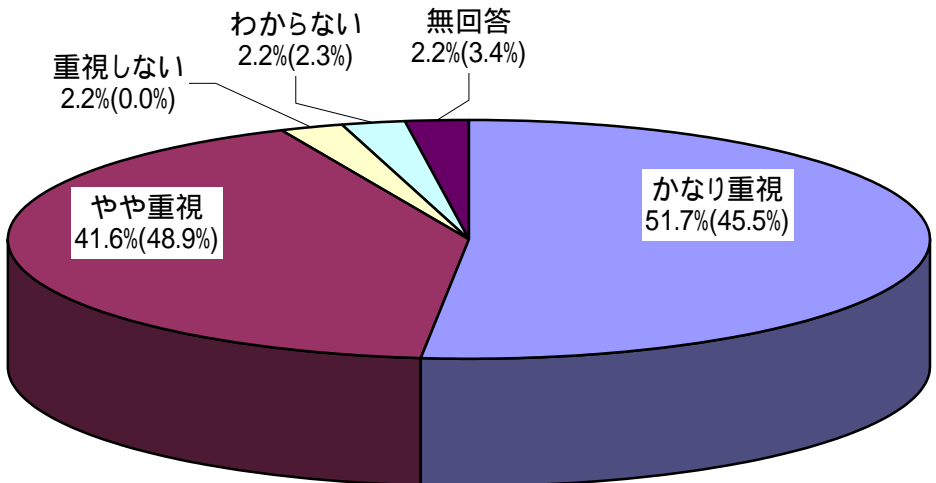


人・情報

<人材教育> 「かなり重視」58.4%

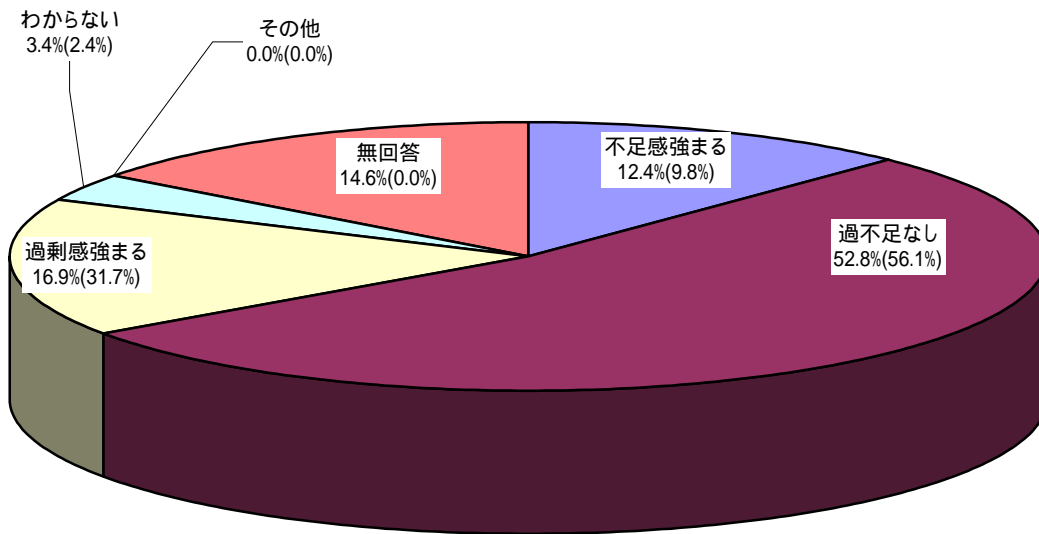


<情報の収集・選択> 「かなり重視」51.7%



# 2004年雇用

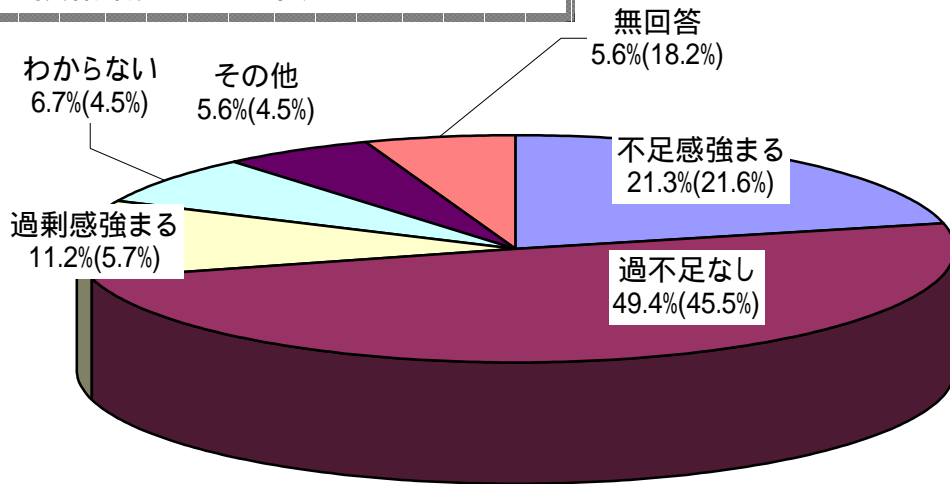
全体「過不足感なし」52.8%



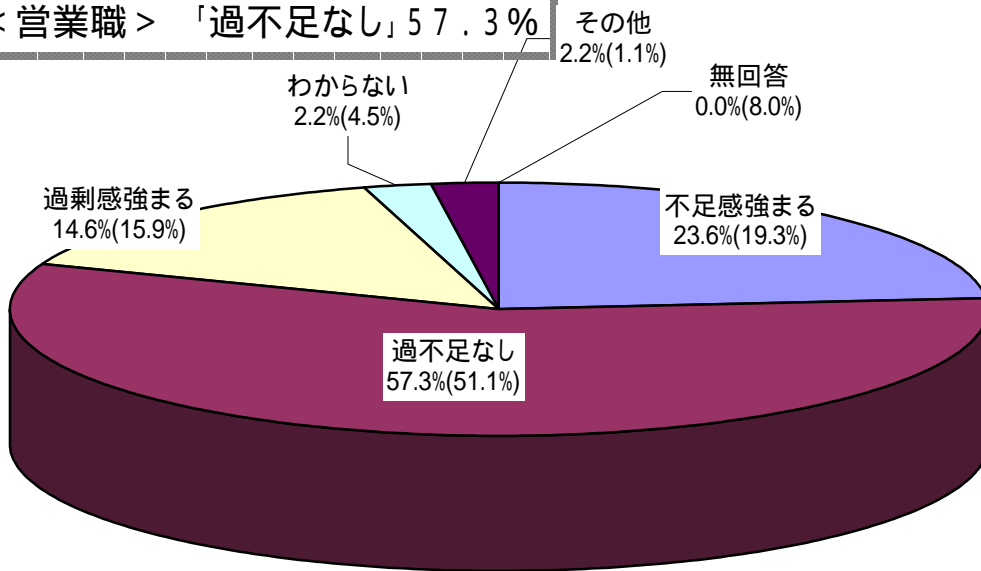
2004年の雇用状況の予測は、「過不足感なし」が52.8%と過半数を占めている。「過剰感」は16.9% (対前年比14.8ポイント減) となった。一方、「不足感」は12.4% (対前年比2.6ポイント増) という結果となった。

# 職 別

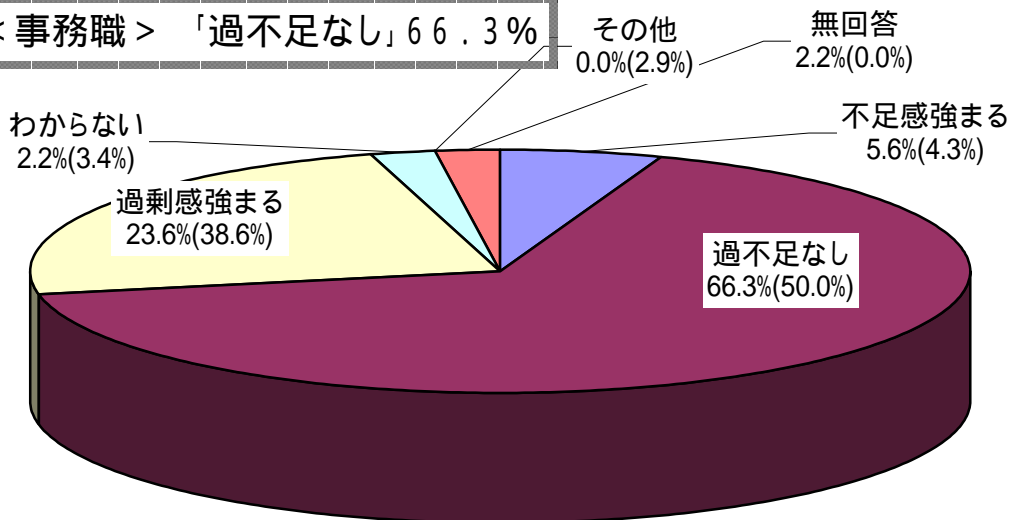
## < 技術職 > 「過不足なし」49.4%



## < 営業職 > 「過不足なし」57.3%

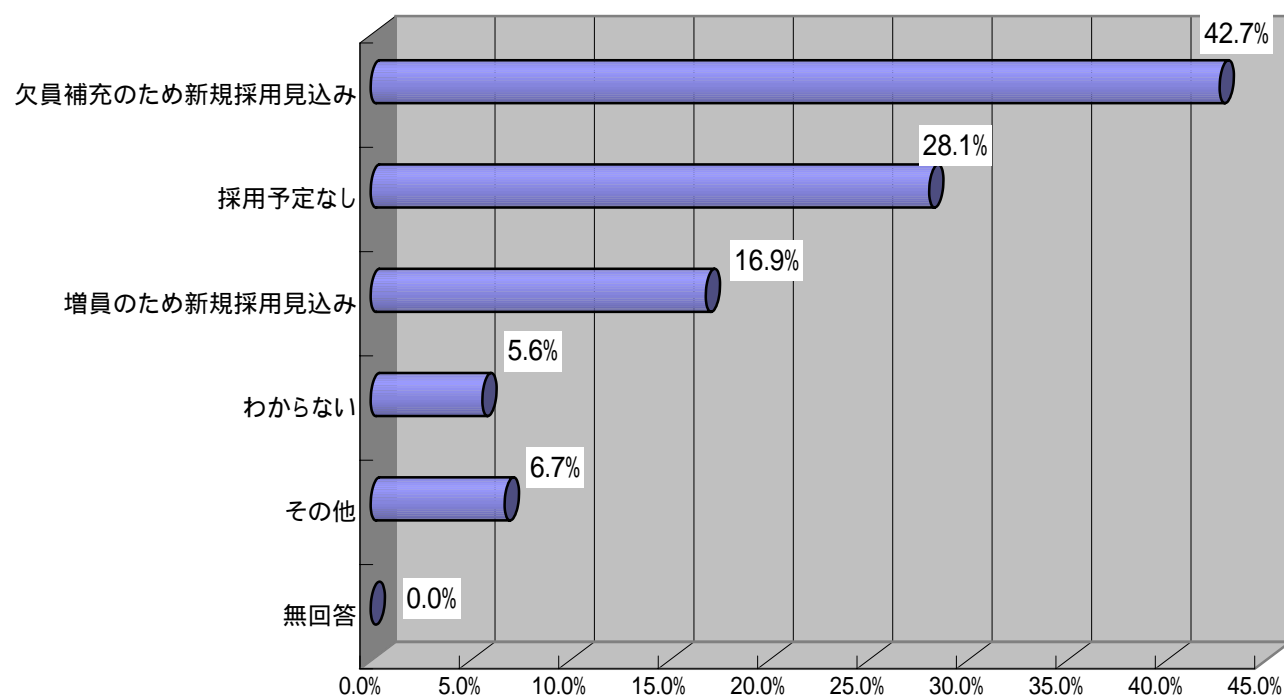


## < 事務職 > 「過不足なし」66.3%



# 2004年の社員採用見込み

## 採用見込み



「欠員補充」の採用見込みが42.7%、次いで「予定なし」が28.1%という結果となった。